

2014年度センター試験 簿記・会計【解説】

第1問

A 個人企業である長野商店（決算は年1回、決算日は12月31日）の取引の記帳に関する問題。

問1. 資料1の繰越試算表を借方、貸方に整理すると、

<借方>		<貸方>	
現金	¥250	買掛金	¥100
当座預金	260	借入金	<input type="text"/>
売掛金	100	資本金	500
商品	40		

繰越試算表の貸借は一致するため、借入金の金額は**¥50**になる。

問2. 3日の取引：(借) 前払金 30 (貸) 当座預金 30

→資産の増加 →資産の減少

6日の取引：(借) 商品 90 (貸) 前払金 30

買掛金 60

分記法である
ことに注意！

→資産の増加

→資産の減少

→負債の増加

問3. 18日の取引：(借) 現金 100 (貸) 商品 80

商品売買益 20

20日の取引：(借) 備品 50 (貸) 未払金 50

問4. 買掛金に関する取引について、仕入先別の買掛金の増減や残高を知るために、仕入先の氏名や商店名などを勘定科目とする**人名勘定**が設けられることがある。

問5. 1月末の商品勘定の残高 : ¥40 + ¥90 - ¥80 = **¥50**

繰越試算表 6日取引 18日取引

1月末の買掛金勘定の残高 : ¥100 + ¥60 = **¥160**

繰越試算表 6日取引

問6. 長野商店の商品売買取引を3分法で記帳した場合の仕訳

6日：(借) 仕入 90 (貸) 前払金 30

買掛金 60

18日：(借) 現金 100 (貸) 売上 100

・ 1月末の仕入勘定の残高…**¥90**

・ 1月末の売上勘定の残高…**¥100**

→分記法の収益（商品売買益¥20）と比べて**¥80**大きくなる。

第1問 Aの解答

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
5	2	4	1	6	1	5	6	9	8

B 個人企業である三重商店（決算は年1回、決算日は12月31日）の取引の記帳に関する問題。

・資料1の取引の仕訳は以下のとおりである。

※当座預金勘定と当座借越勘定を用いる場合

3日：(借) 受取手形 120 (貸) 売上 250

120+130

当座預金勘定
借方3日の記入より

当座預金 130

発送費 20

5日：(借) 仕入 800 (貸) 当座預金 405

当座借越 95

買掛金 300

8日：(借) 当座借越 95 (貸) 仮受金 105

当座預金 10

15日：(借) 借入金 250 (貸) 当座預金 10

当座借越 240

支払利息 8 (貸) 現金 8

当座勘定借方25日
の記入より

25日：(借) 当座借越 20 (貸) 未収金 200

29日：(借) 当座借越 40 (貸) 売掛金 120

当座預金 80

40+80

当座借越勘定
借方29日の記入より

当座預金勘定
借方29日の記入より

※当座勘定を用いる場合

3日：(借) 受取手形 120 (貸) 売上 250

当座 130

発送費 20

5日：(借) 仕入 800 (貸) 当座 500

買掛金 300

8日：(借) 当座 105 (貸) 仮受金 105

15日：(借) 借入金 250 (貸) 当座 250

支払利息 8 (貸) 現金 8

当座勘定借方25日
の記入より

25日：(借) 当座 200 (貸) 未収金 200

29日：(借) 当座 120 (貸) 売掛金 120

当座預金

12/1 前月繰越	295	12/3 発送費	20
3 売上	130	5 仕入	405
8 仮受金	10	15 借入金	10
29 売掛金	80	31 次期繰越	80
	<u>515</u>		<u>515</u>

8日仕訳より

3日仕訳より

5日仕訳と、当座借越勘定 12/5 の記入より。
¥500 の小切手のうち、¥95 が当座借越
なので、残り¥405 が当座預金。

当座借越

12/8 仮受金	95	12/5 仕入	95
25 未収金	200	15 借入金	240
29 売掛金	40		
	<u>335</u>		<u>335</u>

8日までで、当座預金の残高は¥10。
(15日当座預金勘定の記入でも分かる)
残り¥240 が当座借越。

当 座

12/1 前月繰越	295	12/3 発送費	20
3 売上	130	5 仕入	500
8 仮受金	105	15 借入金	250
25 未収金	200	31 次期繰越	80
29 売掛金	120		
	<u>850</u>		<u>850</u>

当座預金勘定および当座借越勘定の
29日の記入より。40+80=120

第1問 Bの解答

サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ
2	5	2	0	2	4	0	5	4	2	4	1	2

第2問

伝票に関する問題。

伝票は5伝票制で商品売買取引はいったん掛けとして処理し、伝票1枚につき、貸方・借方の科目が1科目ずつになるように起票する。

問1. 資料1 取引3の仕訳をすると、

(借) 仮払金 40 (貸) 現金 40

問2. イ: 資料5の売掛金元帳のうち、伝票 No.503 について記帳されているのは **岩手商店** である。

ツ: 資料1のうち、受取手形に関する取引は 取引1 である。

振出人…宮城商店 名あて人(支払人)…**栃木商店** 受取人…当店

ナ: 資料1のうち、支払手形に関する取引は 取引2 である。

振出人…**青森商店** 名あて人(支払人)…当店 受取人…秋田商店

※この列は、振出人を記入する欄である。

問3.

仕訳集計表

平成×5年4月1日

借方	元丁	勘定科目	元丁	貸方
入金伝票 No.101	145	現金	118	振替伝票 No.303 ※受取手形記入帳より、4月1日に 入金された金額は150。
	150	当座預金	180	
	160	受取手形	150	
売上傳票 No.501、503	735	売掛金	380	
	170	前払金	30	
	40	仮払金		
振替伝票 No.305、306 ※伝票で前払金が使われて いるのは No.306 のみで あるため、仕訳集計表より、 金額は30。	180	支払手形	120	
	218	買掛金	612	仕入伝票 No.401、402
	75	仕入	735	振替伝票 No.306
	472		20	
	2345		2345	仕入伝票 No.403

ト…支払手形が4月1日に支払われたことを表す伝票は振替伝票 No.304。

(借) 支払手形 180 (貸) 当座預金 180

ニヌ…まず、振替伝票 No.301 を見る。

(借) 受取手形 160 (貸) 売掛金(宮城商店) 160

したがって売掛金元帳(宮城商店) 3行目の貸方は160、残高は $455 - 160 = 295$ となる。

4行目の残高欄220より、ニヌの金額は $220 - 295 = \Delta 75$ となる。

↑(貸)

ネノハ…入金伝票 No.101 より、貸方は145、残高は $433 - 145 = 288$ となる。

第2問の解答

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
3	6	4	5	7	3	5	1	7	1
サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
5	0	6	1	2	2	0	4	1	8
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ				
7	7	5	2	8	8				

第3問

商品売買業を営む神戸商事株式会社（決算は年1回、決算日は3月31日）の決算処理に関する問題。

・資料2の仕訳は以下のとおりである。

25日：（借）仕入 14 （貸）未着商品 14
 受取手形 20 売上 20
 27日：（借）未着商品 12 （貸）前払金 2
 支払手形 10
 29日：（借）仕入 15 （貸）未着商品 12
 現金 3
 31日：（借）社債利息 16 （貸）当座預金 16

・資料3の仕訳は以下のとおりである。

(1) （借）未収金 35 （貸）土地 40
 固定資産売却益 5
 (2) （借）買掛金 10 （貸）当座預金 10
 ※修正5+仕訳5

・資料4の仕訳は以下のとおりである。

(1) 資料1より、期首商品棚卸高（繰越商品の残高）は100。

資料5 繰越試算表より、期末商品棚卸高（繰越商品の残高）は95。

（借）仕入 100 （貸）繰越商品 100
 繰越商品 95 仕入 95

(2) 資料1より、貸倒引当金の残高5。

受取手形の期末残高： 124（資料1）+ 20（資料2：25日）= 144

売掛金の期末残高： 116（資料5 繰越試算表）

$$(144 + 116) \times 5\% = 13$$

$$13 - 5 = 8$$

（借）貸倒償却 8 （貸）貸倒引当金 8

(3) 資料1または資料5 繰越試算表より、備品 800。

$$800 \times 0.9 \div 12 = 60$$

（借）減価償却費 60 （貸）備品減価償却累計額 60

(4) 時価 226 - 帳簿価額(資料 1) 200 = 26

(借) 有価証券 26 (貸) 有価証券評価益 26

(5) $800 - (800 \times 0.96) \div 4 = 8$

(借) 社債利息 8 (貸) 社債 8

(6) 資料 1 支払家賃 120 $\left\{ \begin{array}{l} \cdot \text{前期から繰り越された 4~6 月分 (3 ヶ月分)} \\ \uparrow 15 \text{ ヶ月分} \left\{ \begin{array}{l} \cdot 7 \text{ 月 1 日 支払い 12 ヶ月分} \end{array} \right. \end{array} \right.$

$$120 \times \frac{3}{15} = 24$$

(借) 前払家賃 24 (貸) 支払家賃 24

(7) 資料 1 仮払法人税 10 より、中間申告で納付した法人税等は¥10。

(借) 法人税等 25 (貸) 仮払法人税等 10

未払法人税等 15

残高試算表
平成×6年3月24日

借方	元丁	勘定科目	貸方
250	省	現金	
530		座預金	
124		受取預手形	
116		売掛引当金	
200		貸倒引当金	5
100		有価証券	
14		繰越商	
100		未着商	
2		前払金	
10		仮払法人税等	
800		備品	
		備品減価償却累計額	180
640		土地	
		支払手形	50
		買掛金	117
	社債	776	
	資本	1,000	
	資本金	150	
	利益準備金	80	
	繰越利益剰余金	360	
	売上	1,880	
	受取利息	4	
1,200	仕入		
380	給支		
120	支払家利		
16	支払家利		
4,602		4,602	

資料 2 : 27 日より

9 月支払分

この金額は売上原価であることに注意する。
 (仕入高 1,200 + 14 + 15 = 1,229)
 $100 + 1,229 - 95 = 1,234$

		損	益	
	3/31 仕入	1,234	3/31 売上	1,900
資料 4,(3) より	〃 給料	380	〃 受取利息	4
	〃 貸倒償却	8	〃 有価証券評価益	26
	〃 減価償却費	60		
	〃 支払家賃	96		
	〃 社債利息	40		
資料 4,(6) より	〃 固定資産売却損	5		
120 - 24 = 96	〃 法人税等	25		
資料 3,(1) より	〃 繰越利益剰余金	82		
		<u>1,930</u>		<u>1,930</u>

資料 4,(4) より

資料 1 繰越利益剰余金 360
 資料 5 繰越利益剰余金 442
 より、増加額 = 当期純利益

繰越試算表
 平成×6年3月31日

借方	元丁	勘定科目	貸方
247	(現金	金
504		座預	形
144		受取手	金
116		売掛当	金
		貸倒引当	金
226		有価証券	品
95		繰越商	品
100	省	貸付	金
35		未収	金
24		前払家賃	債
800		備品減価償却累計額	品
600	略	土地	地
		支払手形	形
		買掛金	金
		未払法人税等	等
		社債	債
		資本準備金	金
		利益準備金	金
)	繰越利益剰余金	金
<u>2,891</u>			<u>2,891</u>

資料 4,(2) より
 $(144 + 116) \times 5\% = 13$

資料 1 ・ 資料 2,(27日) より
 $50 + 10 = 60$

資料 1 ・ 資料 3,(2) より
 $117 - 10 = 107$

資料 4,(7) より

資料 1 ・ 資料 4,(5) より
 $776 + 8 = 784$

第3問の解答

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
3	5	a	1	6	2	3	4	6	0
サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
9	6	8	2	1	3	6	0	1	0
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ					
7	1	5	8	4					